

日本アジア投資株式会社
2022年3月期 第2四半期
決算補足資料

決算発表日：2021年11月12日

(ご注意) 本資料に記載された事項は、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。また、今後予告なしに変更されることがあります。本資料に含まれる意見や予測などについては、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご留意下さい。また、本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的とするものではありません。なお、本資料内の業績数値は全て従来連結基準にて表示しております。

いつもお世話になります。日本アジア投資株式会社 代表取締役社長の下村でございます。

当第2四半期の決算につき、ご説明いたします。

1. 総括	P3
2. 当四半期の実績（前年同期比較）	P4
3. 業績予想	P9
4. 中期経営計画の進捗状況	P12
5. 参考情報	P20

（ご注意）本資料内の業績数値は全て従来連結基準にて表示しております。

本日は説明するのは、このうち1番から4番までです。

なお、当社では、ファンド連結基準と従来連結基準の2つの連結数値を開示していますが、ここでは従来連結基準でご説明いたします。

1. 総括



✓ 当四半期の実績（前年同期比較）

- 営業収益381百万円(△29.6%)、最終赤字△643百万円(307百万円赤字拡大)
- 上場株式の売却の減少、売電収入の減少により減収
- 株式売却益の減少、評価損・投資損失引当金繰入額の増加により赤字幅拡大

✓ 業績予想

- 通期の業績予想に変更なし
- 上期の計画比下振れ（営業収益達成率54.4%、赤字幅約4億円拡大）を、下期の売却益上振れが補う見込み

✓ 中期経営計画の進捗状況

経営理念に基づきSDGsを強く意識した投資活動を徹底する

- ディストリビューションセンター：埼玉県日高市の施設に投資実行（4月）
埼玉県越谷市の施設が竣工（10月）
- スマートアグリ：兵庫県丹波篠山市で第2弾となる植物工場を増設（9月）
- 障がい者グループホームを投資対象とするファンドに出資（8月）、
当社3件目となる栃木県宇都宮市のグループホームが営業開始（9月）
- 当社設立40周年を記念して「金融機関.YOM」当社特集号が発刊
SDGsの掲げる持続的な経済発展に貢献する当社の投資事例を豊富に紹介

日本アジア投資株式会社 2022年3月期 第2四半期決算補足資料（2021年11月12日発表）

- 3 -

まずは全体の総括です。

当四半期の実績は、前年同期に比べて、29.6%の減収となりました。最終赤字は6億4千3百万円となり、前年同期から、約3億円拡大しました。減収の要因は2つあります。1つは、前年同期に比べて、上場株式の売却が減少したことです。もう1つは、前期に一部の売電中メガソーラープロジェクトを売却したため、売電収入が減少したことです。また、赤字拡大の要因は、株式の売却益の減少に加えて、業況の悪化した投資先企業に対する評価損や引当が増加したことです。

ただし、通期の業績予想には変更ありません。上期の実績は計画から下振れました。計画達成率は、営業収益が54.4%に留まり、最終赤字は約4億円拡大しています。その一方で、下期は株式売却益が上振れし、上期の未達を補う見込みです。下期には、期初に見込んでいなかった国内投資先が新規上場し、株式の売却益が増加する見込みです。また、メガソーラーを始めとするプロジェクトの売却は、期初の計画通り見込んでいます。

次に、中期経営計画の進捗状況についてご説明します。当社は現在、2021年4月から始まる3年間の経営計画を進めています。この上期は、計画通り順調に、経営理念に基づくSDGsを強く意識した投資活動を行いました。ディストリビューションセンタープロジェクトでは、埼玉県日高市の物流施設に投資を行いました。また、下期には入りますが、10月に埼玉県越谷市の施設が竣工しています。スマートアグリプロジェクトでは、兵庫県丹波篠山市の工場を増設しました。ヘルスケアプロジェクトでは、障がい者グループホームを投資対象とするファンドに出資しました。また、当社3件目となる栃木県宇都宮市のグループホームが営業を開始しました。

最後に、当社の設立40周年についてご報告致します。当社は2021年7月に設立40周年を迎えました。ひとえに株主や投資家の皆様方のご支援ゆえと、深く感謝致します。これに因み、私共と長年おつきあいのあるリッキービジネスソリューション株式会社より、当社の記念特集号として、同社の機関紙「金融機関.YOM」40号を発刊していただきました。当社のSDGs投資の取り組みを、豊富な事例を交えてご紹介しています。当社ウェブサイトに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

2. 当四半期の実績（前年同期比較）



ハイライト	P5
営業収益・営業原価内訳	P8

それでは、実績について、前年同期との比較でご説明いたします。

2. 当四半期の実績-ハイライト P/L



(単位: 百万円)	2021/3期 2Q		2022/3期 2Q	
	実績	金額	金額	増減率
営業収益		541	381	△29.6%
営業原価		313	327	4.4%
営業総利益		227	53	△76.4%
販管費		544	550	1.2%
営業利益	△316		△496	-
経常利益	△335		△538	-
親会社株主に帰属する当期純利益	△336		△643	-

項目	金額 (百万円)
前期	△ 336
株式売却益	△ 102
評価損・引当	△ 187
その他	△ 19
当期	△ 643

✓ 減収要因：

- ・ 利益率の高い上場株式の売却額が減少
- ・ 前期に一部の売電中メガソーラープロジェクトを売却したため、売電収入が減少

✓ 赤字幅拡大要因：

- ・ 売却益よりも資金回収を優先して流動化した未上場株があったため、株式売却益が減少
- ・ 業況の悪化した投資先企業に対する、評価損や投資損失引当金繰入額が増加

日本アジア投資株式会社 2022年3月期 第2四半期決算補足資料 (2021年11月12日 発表) - 5 -

こちらはPLのハイライトです。

営業収益は、29.6%減収の、3億8千1百万円となりました。前年同期に比べて、上場株式の売却額が減少しました。また、前期に一部の売電中メガソーラープロジェクトを売却したため、売電収入が減少しました。

最終赤字は6億4千3百万円となり、前年同期から、約3億円拡大しました。その要因は2つあります。1つは、株式の売却益が減少したことです。利益率の高い上場株式の売却が減少した一方で、未上場株式を売却益よりも資金回収を優先して流動化したため、株式売却益が減少しました。もう1つは、業況の悪化した投資先企業に対する評価損や引当金が増加したことです。

2. 当四半期の実績-ハイライト B/S



(単位:百万円)	2021/3期末	2022/3期(2Q)末		
	金額	金額	増減率	主な増減要因 (単位:億円)
総資産	14,657	13,740	△6.3%	
うち 現預金	3,699	↓ 2,015	△45.5%	返済△7、投融資△14、費用等△5、回収+9
うち プロジェクト投資 (営業投資有価証券・貸付金)	5,583	↑ 6,475	16.0%	投融資実行+9
うち 戦略投資 (営業投資有価証券)	1,155	↑ 1,483	28.4%	投資実行+4
うち フィナンシャル投資 (営業投資有価証券(引当後))	3,111	↓ 2,974	△4.4%	投資実行+1、分配・売却△2
借入金	6,950	↓ 6,253	△10.0%	返済△7
自己資本	7,338	6,640	△9.5%	利益△6.4、含み損益△0.5

- ✓ 投資回収に先行して投資実行や借入金返済が進んだため、現預金が一時的に減少
- ✓ フィナンシャル投資からプロジェクト投資・戦略投資への資産入替が進行中
- ✓ 将来の成長に向けた投資資金を確保した上で借入金を返済し、残高を着実に圧縮

日本アジア投資株式会社 2022年3月期 第2四半期決算補足資料 (2021年11月12日発表)

- 6 -

こちらはBSのハイライトです。

総資産は前期末から6.3%減少して、137億4千万円となりました。当社は現在、フィナンシャル投資からプロジェクト投資や戦略投資へと資産の入替を進めており、その成果が表れています。プロジェクト投資資産は、投融資が進み16%増加しました。戦略投資も、既存投資先への追加投資により残高が増加しました。一方で、フィナンシャル投資資産は、他社ファンドからの分配や株式の売却により4.4%減少しました。

また、借入金は、将来の成長に向けた投資資金を確保した上で返済し、着実に返済を進めています。

なお、現預金は、投資回収に先行して投資実行や借入金返済が進んだため、一時的に減少しています。

2. 当四半期の実績-ハイライト C/F



(単位：百万円)	2021/3期 2Q	2022/3期 2Q
営業活動によるCF	326	↓ △1,232
投資活動によるCF	△13	55
財務活動によるCF	△697	△697
CF増減額	△396	△1,855
期末残高	2,326	1,445

✓ 営業CF：投資の回収が減少した一方で投資実行が進捗したため、マイナスに転じた

次にキャッシュ・フローです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、投資の回収が減少した一方で投資実行が進捗したため、マイナスに転じ、12億3千2百万円の支出となりました。

その結果、キャッシュ・フロー全体では18億5千5百万円の支出超過となり、キャッシュの期末残高は14億4千5百万円となっています。

2. 当四半期の実績 – 営業収益・営業原価 内訳



(単位：百万円)	合計		プライベートエクイティ投資		プロジェクト投資	
	2021/3期 2Q	2022/3期 2Q	2021/3期 2Q	2022/3期 2Q	2021/3期 2Q	2022/3期 2Q
営業収益	541	381	402	293	139	87
管理運営報酬等	82	81	79	77	3	3
営業投資有価証券売却高	232	176	232	176	0	-
組合持分利益・イカゲイン等	198	95	85	32	113	63
その他営業収益	26	27	4	7	22	19
営業原価	313	327	239	292	74	35
営業投資有価証券売却原価	85	131	85	131	0	0
営業投資有価証券評価損・投資損失引当金繰入額	△62	124	△62	124	-	-
組合持分損失等	285	66	213	34	72	31
その他営業原価	3	4	2	1	1	2
営業総利益	227	53	162	1	64	51

- ✓ プライベートエクイティ投資：減収・減益
 - ・営業収益（売却高）：上場株式の売却額が減少
 - ・営業原価（売却原価）：売却益よりも資金回収を優先して未上場株を流動化したため増加（評価損・引当金）：業況の悪化した投資先企業への計上額が増加
- ✓ プロジェクト投資：減収・減益
 - ・営業収益（組合持分利益）：前期に売電中のプロジェクトの一部を売却したため減少
 - ・営業原価（組合持分損失等）：植物工場の先行費用が減少

日本アジア投資株式会社 2022年3月期 第2四半期決算補足資料（2021年11月12日発表）

- 8 -

次に、営業収益と営業原価について、科目別・投資資産別の内訳をご説明いたします。

プライベートエクイティ投資は、前年同期から減収・減益となりました。

営業収益のうち「営業投資有価証券売却高」が減少しています。上場株式の売却が減少したためです。一方で、これに対応する売却原価は増加しました。売却益よりも資金回収を優先して未上場株を流動化したことが主因です。また、評価損と引当金の合計は、業況の悪化した投資先企業への計上額が増加しました。その結果、大幅な減益となっています。

プロジェクト投資については、前年同期から減収、減益となりました。

前年同期・当四半期ともにプロジェクトの売却はありません。売電収益などを源泉とするプロジェクトからの利益は、営業収益のうち「組合持分利益」に含まれています。前期に売電中のプロジェクトの一部を売却したため、減少しています。

営業原価では、「組合持分損失等」が減少しています。植物工場の販路拡大に伴い、先行費用が減少したためです。

業績見込値の詳細	P10
将来に関する記述等についてのご注意	P11

ここからは、業績予想について、ご説明します。

3. 業績予想 – 業績見込値の詳細



単位：百万円	2022/3(2Q) 実績	上期見込 (期初発表値)		通期見込 (期初発表数値)	
	金額	金額	達成率	金額	進捗率
営業収益	381	700	54.4%	2,950	12.9%
営業原価	327	360	90.9%	1,320	24.8%
営業総利益	53	340	15.8%	1,630	3.3%
販管費	550	560	98.3%	1,120	49.2%
営業利益	△496	△220	-	510	-
経常利益	△538	△250	-	430	-
親会社株主に帰属する当期純利益	△643	△250	-	340	-

- ✓ 通期業績見込みの修正なし。上期の下振れを、下期の株式売却益上振れが補う見込み
- ✓ 上期は、見込んでいた未上場株式の売却が来期以降にずれ込んだほか、見込外で他社ファンドからの特別損失が発生し、計画比下振れ（営業収益達成率54.4%、赤字幅約4億円拡大）
- ✓ 下期は、期初見込外の国内投資先の新規上場により株式の売却益が増加見込み、メガソーラーを始めとするプロジェクトの売却も期初計画通り見込む

こちらは、2022年3月期の業績見込値の詳細です。

通期見込の修正はありません。

上期の実績は、見込みに比べて下振れました。達成率は、営業収益が54.4%に留まり、最終赤字は約4億円拡大しています。未達の主な要因は2つあります。1つは、見込んでいた未上場株式の売却が来期以降にずれ込んだことです。もう1つは、見込外で他社ファンドからの特別損失が発生したことです。

その一方で、下期は株式売却益が上振れし、上期の未達を補う見込みです。下期には、期初に見込んでいなかった国内投資先が新規上場し、株式の売却益が増加する見込みです。また、メガソーラーを始めとするプロジェクトの売却は、期初の計画通り見込んでいます。

- ✓ 業績予想につきましては、当社グループが展開するプライベートエクイティ投資はその事業特性上株式市場等の変動要因による影響が極めて大きく、加えて昨今の変動の激しい環境下においては合理的な業績予想が困難なため、当社は業績予想を行っておりません。
- ✓ しかしながら、投資家及び株主の皆さまの利便に資するべく、業績予想に代えて、ある一定の前提を元に策定した「従来連結基準による見込値」を、数値の確度は低いものの、参考情報として開示しております。
- ✓ なお、当該「従来連結基準による見込値」をはじめとする本資料に掲載されている全ての将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報及び一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の数値は様々な要因により記述されている内容とは大きく異なる可能性があります。

次に、こちらでは、業績見込値をご利用になるうえでの注意事項についてご説明いたします。

当社では、その事業特性上、合理的な投資損益の見込みが立てづらいために、業績予想は開示しておりません。しかしながら、少しでも投資家の皆さまのご参考になればと考え、一定の前提のもとで策定した「従来連結基準の業績見込値」というものを、あくまで参考情報として、公表しております。

前提条件については決算短信に記載しておりますので、皆さまには、この前提条件を踏まえて見込値をご利用頂ければと存じます。

また、今後開示すべき事象が生じた場合には、適時適切に開示をしております。

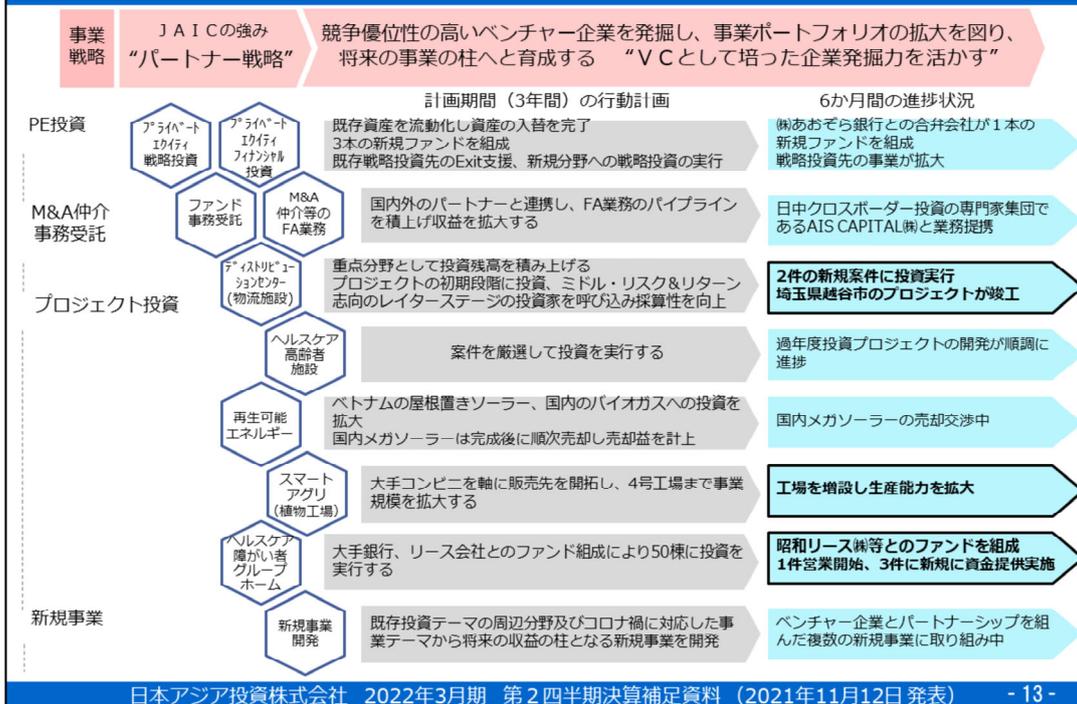
4. 中期経営計画の進捗状況



全体像	P13
ディストリビューションセンタープロジェクト	P14
スマートアグリプロジェクト	P16
ヘルスケアプロジェクト（障がい者グループホーム）	P17
当社40周年記念「金融機関.YOM」40号	P19

ここからは、中期経営計画の進捗状況について、ご説明します。

4. 中期経営計画の進捗状況 – 全体像



日本アジア投資株式会社 2022年3月期 第2四半期決算補足資料 (2021年11月12日 発表)

- 13 -

こちらは、全体像です。

当社は現在、2021年4月から始まる3年間の経営計画を進めています。こちらのスライドでは、中央に、3年間の行動計画を記載しています。その右側は、この上期の進捗状況です。計画通り順調に、経営理念に基づくSDGsを強く意識した投資活動を行っています。

このうち、この上期には、ディストリビューションセンタープロジェクト、スマートアグリプロジェクト、ヘルスケアプロジェクトのうち障がい者グループホームにおいて、大きな進捗がみられました。本日は、この3点につき、詳しくご説明致します。

ディストリビューションセンタープロジェクトは、重点分野として投資残高を増やす計画です。これに対し、2件の新規案件に投資を実行しました。また、10月には、埼玉県越谷市の施設が竣工しています。スマートアグリプロジェクトでは、大手コンビニエンスストアを軸に販売先を開拓し、4号工場まで事業規模を拡大する計画です。これに対し、兵庫県丹波篠山市の工場を増設し、生産規模を拡大しました。

ヘルスケアプロジェクトのうち障がい者グループホームでは、銀行やリース会社とファンドを組成し、50棟に投資をする計画です。実績は、計画通り、昭和リースを始めとする企業と共にファンドを組成しました。また、当社3件目となる栃木県宇都宮市のグループホームが営業を開始しています。



KIC狭山日高ディストリビューションセンター



パートナー企業
KICホールディングス
株式会社

完成予想図



所在地	埼玉県日高市
アクセス	圏央自動車道「狭山日高IC」より約500m、西武新宿線「狭山市駅」より約4.8km
物件概要 (予定)	延床面積約15,123m ² 、地上4階建
竣工予定	未定

こちらは、ディストリビューションセンタープロジェクトへの新規投資の事例です。埼玉県日高市の物流施設です。交通が至便な立地である点が特徴です。圏央自動車道の「狭山日高インターチェンジ」より約500メートル、西武新宿線の「狭山市駅」より約4.8キロメートルに位置しています。

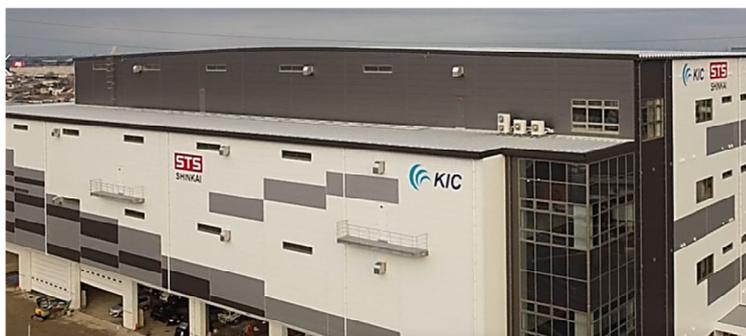
プロジェクトの開発は、当社の戦略投資先であるKICホールディングス株式会社が行います。



KIC越谷ディストリビューションセンターが竣工（2021年10月）



パートナー企業
KICホールディングス
株式会社



- ✓ 道路付の悪い土地を、KICホールディングスの開発力により、交通が至便な好立地に仕立てて完成
- ✓ 複合型電力供給システムを備え、施設の利用電力の60%を太陽光で賄う、低環境負荷型物流施設

所在地	埼玉県越谷市
アクセス	東北自動車道「浦和IC」より約6km 東武スカイツリーライン「大袋駅」より徒歩約10分
物件概要	延床面積：11,250m ² 、地上4階建



内覧会の様子

日本アジア投資株式会社 2022年3月期 第2四半期決算補足資料（2021年11月12日発表）

- 15 -

こちらは、2021年10月に竣工した埼玉県越谷市の施設です。当社が投資を行った第1号案件です。

こちらも、東北自動車道の「浦和インターチェンジ」より約6キロメートル、東武スカイツリーラインの「大袋駅」より徒歩約10分と交通が至便な立地です。

元は道路付の悪かった土地を、KICホールディングスの開発力により改善し、交通が至便な好立地に仕立てて完成に至りました。

また、2022年1月には、複合型電力供給システムを導入し、施設の利用電力の60%を太陽光で賄う、低環境負荷型物流施設として運用される予定です。

この複合型電力供給システムを開発したのは、当社の戦略投資先であるスマートソーラーです。物流施設の屋上に設置する太陽光パネルと、蓄電池、商用電源を、複合的・効率的に運用し、発電したクリーンエネルギーを施設の入居者が最大限消費することができるようになります。加えて、停電時には自立した非常用電源としても機能します。

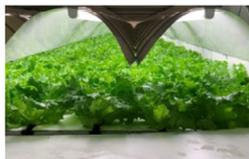
このように、この施設は、戦略投資先企業同士の協業が成功した事例でもあります。



リーフレタスを栽培する丹波篠山工場を増設 生産能力は2.3倍に拡大見込み



パートナー企業
株式会社
森久エンジニア
リング



手前：第2工場（増設部分）、奥：第1工場（既設部分）

第1工場（既設部分）概要	
稼働時期	2019年3月
工場形態	完全閉鎖型植物工場
栽培品目	リーフレタス
年間生産量	約200トン

第2工場（増設部分）概要	
稼働時期	2021年12月 本格稼働予定
工場形態	完全閉鎖型植物工場
栽培品目	リーフレタス
年間生産量	約270トン

日本アジア投資株式会社 2022年3月期 第2四半期決算補足資料（2021年11月12日発表）

- 16 -

こちらはスマートアグリプロジェクトです。2021年9月、兵庫県丹波篠山市の完全閉鎖型植物工場の、生産能力拡大を目的とした増設部分が竣工しました。当社が森久エンジニアリングをパートナーとして共に進めているスマートアグリプロジェクトの第2弾です。増設部分が本格稼働する2021年12月以降は、生産量が2.3倍の年間470トンまで増加する見込みです。

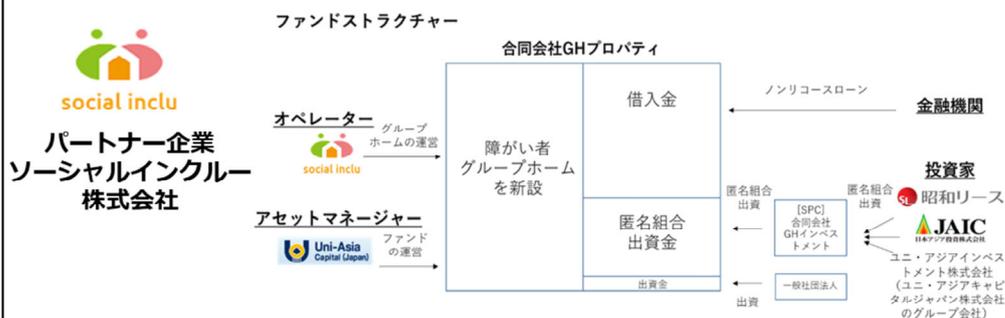
増設を決定した背景には、植物工場野菜への需要が拡大していることがあります。例えば、これまで露地物野菜を利用していた企業が全量を工場野菜へ切り替える事例が徐々に増加しています。これに伴って、既設部分である第1工場の受注量も生産能力に迫る状態となっていました。

また、最近では植物工場野菜への評価が、多面的に高まっていると実感しています。具体的には、気象に影響されず安定した品質・量・価格供給が可能な点に加えて、施設内で土を使わず無農薬で生産された野菜は、露地栽培に比べ安全かつ衛生的で洗浄の手間も少なく、水資源や労働力の削減にもつながる点が評価されています。

工場の運営は、当社のパートナーである森久エンジニアリングが担います。特許に基づく同社の技術力により、生菌数が極めて少なく高品質かつ無農薬の野菜の量産を実現し、品質に厳しい大手企業からも高い評価を得ています。



**昭和リース㈱、ユニ・アジアキャピタルジャパン(株)と共同でファンドに匿名組合出資
戦略投資先ソーシャルインクルーの事業拡大を支援**



ファンド名	合同会社GHプロパティ
匿名組合出資者	合同会社GHインベストメント (匿名組合出資者；昭和リース株式会社、ユニ・アジアインベストメント株式会社、日本アジア投資株式会社)
グループホームオペレーター	ソーシャルインクルー株式会社
投資対象	24時間支援体制の日中サービス支援型障がい者グループホーム (ソーシャルインクルーホーム船橋市金杉、ソーシャルインクルーホーム熱海緑ヶ丘、他)

日本アジア投資株式会社 2022年3月期 第2四半期決算補足資料 (2021年11月12日 発表)

- 17 -

こちらは、ヘルスケアプロジェクトのうち、障がい者グループホームです。2021年8月に、障がい者グループホームを投資対象とするファンドが組成されました。当社は、昭和リース株式会社、及び、ユニ・アジアインベストメント株式会社と共同で、SPCを通じて匿名組合出資を実行しました。

ファンドが投資する障がい者グループホームは、24時間支援体制の「日中サービス支援型」です。運営は、当社の戦略投資先であるソーシャルインクルーが担います。

このファンドは、金融機関からのノンリコースローンを加えて組成されます。障がい者グループホームを投資対象としている点が新規性に富んでおり、他に例を見ないファンドです。当社は、このファンドは、金融機関の資金運用ニーズとSDGs分野の資金需要を結び付けて社会の課題を解決するプラットフォームとなると見込んでいます。今後も、他の金融機関との協業により、同様のスキームでのファンド出資を拡大していく方針です。

4. 中期経営計画の進捗状況－障がい者グループホームが営業開始



ソーシャルインクルーホーム宇都宮宝木町



パートナー企業
ソーシャルインクルー
株式会社



所在地	栃木県宇都宮市
部屋数	入居者用20部屋 短期入所用2部屋
グループ ホーム種類	日中サービス支援型
営業開始	2021年9月

日本アジア投資株式会社 2022年3月期 第2四半期決算補足資料 (2021年11月12日 発表) - 18 -

こちらの写真は、栃木県宇都宮市の障がい者グループホームです。2021年9月に営業を開始しました。当社にとって3件目のプロジェクトです。

加えて、この上期中に3件の新規プロジェクトに資金を提供しています。

地域の金融機関からのご支援を受け、足元ではさらに多くのプロジェクトが進行中です。今後も件数を増やし、同社の成長を支援していく方針です。



当社は2021年7月に設立40周年を迎えました。ひとえに皆様方のご支援ゆえと深謝致します。

私共と長年おつきあいのあるリッキービジネスソリューション株式会社より、これに因み、当社の記念特集号として、同社の機関紙「金融機関.YOM」40号を発刊していただきました。

当社のSDGs投資の取り組みを、事例を交えてご紹介しています。ぜひご覧ください。

<http://www.ginkouin.com/>

以上が、私からのご説明となります。ご清聴ありがとうございました。